

放課後子ども教室の報告

近年、子ども達は直接的な体験の機会が少なくなっていると言われています。変化していく社会の中で、子ども達が生き抜く力を育てるためには、異学年や地域の大人と交流しながら様々な体験をすることが必要です。

そのために行っている事業の1つが「放課後子ども教室(各地区平日開催)」です。

◆放課後子ども教室(各地区平日開催)とは

平日の放課後の時間、地域の大人が指導者となり子ども達に様々な体験活動の機会を提供する事業です。



◆なぜ放課後子ども教室が始まった？

長井市では児童の約3割が学童クラブを利用しています。「学童クラブに通っている子と通っていない子が放課後に遊ぶ場が無い」「家に帰っても近所に遊ぶ子どもがいない」といった声を受け、平成27年度から市全体で放課後子ども教室(各地区平日開催)に取り組んでいます。

H31.4.1現在、長井市内の小学生1,242名に対して382名の児童が学童クラブを利用しています(約30%)。1~3年生に限れば、小学生625名に対して293名の児童が学童クラブを利用しています(約46%)。

◆長井市の体制について

コーディネーターという役割を各地区1~2名の方をお願いしています。その方が中心となって地域の指導者を集め、活動を企画・運営していただいています。また、PTAや子ども会、地区長会など様々な団体と協議の場を持ち、地区のコミュニティセンターや学校にご協力いただきながら実施しています。

◆Q&A

①学童クラブとの違いは？ ⇒役割と頻度が異なります。

学童クラブ：留守家庭のお子さんの生活の場(学校のある日は開所)

放課後子ども教室：全ての児童の学びと交流の場(月1回程度)

②参加したい時は？

各回開催の1~2週間前にチラシが配られます。チラシに記載の方法でお申し込みください。

「とよだ Wednesday クラブ」について

豊田地区コーディネーター 近野 かおり

1. 地域の中での「とよだ Wednesday クラブ」の目的

現代の子ども達は、少子化と地域や家庭環境の変化によって、下校しても友達と一緒に遊ぶ環境がなく、ゲームをして時間を過ごすことが多く、体を動かして遊ぶ事が少なくなっている状況にあります。放課後子ども教室は、子ども同士の遊びの中から自主性と創造性、協調性が醸成される事を目的としています。

そこで豊田地区では、思いっきり体を動かして、異学年でも協力しながら楽しく遊べる内容で遊びの場を計画して、学校・コミュニティセンターの方々・地域ボランティアスタッフの方々と協力し合って活動を実施しています。

※豊田地区では「とよだ Wednesday クラブ」という名称で放課後子ども教室を開催しています。

2. 「とよだ Wednesday クラブ」の概要

○開催日 月1回、一斉下校でない水曜日（6月から10月の年5回）

○会場 小学校のグラウンドや体育館

○時間 放課後の午後2時55分頃～午後4時15分

○対象者 豊田小学校の全校生（学童クラブ利用者を含む）…申込制
参加者は授業終了後、ホールで受付をしてグラウンドに集合する。



（会場が体育館の時は、体育館で受付をする。）

活動終了後、下校方法ごとに整列して、スタッフが昇降口まで付き添い、下校の見届けをする。学童クラブへ行く児童については、学童クラブまでスタッフが付き添い送り届ける。

（下校方法 ①徒歩で帰る ②保護者のお迎え ③学童クラブへ行く）

3. 「とよだ Wednesday クラブ」のいままで(回顧録)

活動が水曜日になるので、豊田地区の放課後子ども教室は「とよだ Wednesday クラブ」と名付けて親しみを持ってもらえるようにしました。平成27年の初年度は、豊田小学校の体育館が大規模改修になり、体育館が使用できずグラウンドのみの活動でした。第1回目は参加者10名、スタッフ10名の不安なスタートでしたが、2回目以降は27名、34名、36名と参加者が増えて1年目としては安心しました。

5年目の昨年は、参加者最大人数は59名で、年々参加者が増えてきています。参加した子ども達が Wednesday クラブでの楽しかった活動を友達に広めて、遊び仲間を増やしているからだと思います。

4. 現在の運営で課題だと感じている事

- ・異学年の希望者が集まるので、毎回受付や整列に時間がかかり、参加者の動きが定着しづらい事。
- ・活動が平日の時間であるので、スタッフがなかなか増えない。



5. やりがいだと思っていること

1. コーディネーター

とよだ Wednesday クラブの活動内容が広まり、お知らせのお手紙を楽しみにしていてくれて、毎年少しずつ参加者が増えて来た事と、活動終了後、「楽しかった!」「またやりたい!」とびに満足してもらった時が、何より嬉しいです。また、参加者の保護者からのアンケートから、体を動かして遊ぶ事や異学年が交流して遊ぶ事が共通して喜ばれている事もやりがいになっています。

6. 今後どんなふうに進めていきたいか

とよだ Wednesday クラブでは、次の4つを柱に遊びの内容を考えてきました。①外での遊びも取り入れる。②体を動かしての遊び。③異学年交流での遊び。④昔の遊びを取り入れる。

5年間の活動で少しずつ参加者が増えてきて嬉しい反面、全員が十分遊べる道具の数の確保が必要な、竹馬・缶ぽっくりなど、昔の遊びはできなくなってきました。これまでの子供たちの様子を見てみると、体を動かす単純な遊びに満足度が高まっていたようです。

今後も、体を動かして異学年交流で遊ぶことは変わりなく続けていきたいと思えます。これまでは、参加者を増やすために魅力ある遊びのルールを考えたりしていましたが、子どもたちが求めているのは、体を動かす単純な遊びで、もう少し遊ぶ時間がほしい事のように感じられました。今後は、限られた時間の中で、遊びの実働時間を確保できるように計画を立て、スタッフの方々の協力を得て取り組んでいきたいと思えます。

7. 各学校・コミュニティセンターから一言

帰宅しても近所に仲間のいない子供たちにとっては、放課後子ども教室の Wednesday クラブの場はありがたいし、楽しみにしている。また、保護者の方々も、友達と楽しく汗を流してくる子供たちの様子を見て、大変感謝しているようである。

地域学校コーディネーター 目黒 聡治

開催日については学校と、活動種目についてはコーディネーターを中心とした話し合いを行うことによって、地域と学校がより緊密に連携が取れるようになってきたと思えます。コミセンでは、関係者、関係団体との連絡調整役として関わらせていただきました。この活動を通じて、子どもたちの安全・安心を見つめ直す切っ掛けにもなったと思えます。今後とも、子どもたちに体験活動や自由遊びの機会を提供していくための支援活動を行っていきたいと考えています。

豊田コミセン館長 梅津 和士

8. コーディネーターから地域の方にお願したいこと

低学年が多いので、どうしても受付や整列に時間がかかってしまいます。スムーズで安全な活動運営のためにもスタッフの人数が必要です。遊びの見守りを一緒にしてくださる方のご協力をお願いします。1回だけの参加でも構いません。活動日については、5月頃にチラシを配布しますので、どうぞ一度、子どもたちの遊びを見に来てください。お待ちしております。

豊田地区

子ども達の学校生活や安全を考慮し、春～秋に年5回実施しています。ドッジボールなどの運動で体を思いっきり動かし、子ども達もスタッフも楽しんで活動しています。また、子ども達に楽しかった活動やしてみたいことを聞き、子ども達の要望を活動に取り入れています。

平成27年度

おにごっこ、ドッジビー、
雑巾がけリレーなど4回実施

参加者延べ107名

平成30年度

おにごっこ、缶ぽっくり、
ドッジボールなど5回実施

参加者延べ162名

平成28年度

ドッジボール、長縄跳び、
水鉄砲など5回実施

参加者延べ206名

令和元年度

水鉄砲、フラフープ、雑巾がけ
リレーなど5回実施

参加者延べ256名

平成29年度

ドッジボール、水鉄砲、雑巾
がけリレーなど5回実施

参加者延べ201名



お問い合わせ先：

長井市教育委員会文化生涯学習課 生涯学習係

電話：0238(84)7677

FAX：0238(88)5883